

## 平成24年度入船地区学校統合合同説明会議事要旨

- 1 開催日時** 平成24年9月22日（祝）＜午前の部＞午前10時～午後12時5分  
＜午後の部＞午後1時～午後2時20分
- 2 開催場所** 浦安市立入船南小学校体育館
- 3 出席者** 松崎市長、黒田教育長、長野教育総務部長、大野教育総務部参事  
角田教育総務部次長、山高教育総務部次長  
(事務局)  
佐藤学務課長、桂林学務課長補佐、大和学務課教職員係長、鈴木管理主事  
塩谷管理主事  
船橋教育政策課長補佐、臼井指導課長補佐、岡本教育総務課財務係長  
矢ヶ部保健体育安全課体育安全係長

## 4 議 題

- ・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明
- ・質疑応答、意見交換

## 5 資 料

(当日配布)

- ・入船地区学校統合計画について
- ・入船地区学校統合の今後の進め方について
- ・入船地区学校統合に関する検討課題
- ・入船地区小学校児童数の推移予測
- ・入船地区学校統合に関するQ&A
- ・入船地区学校統合に関するQ&A 2

## 6 会議経過

・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明については、以下の内容を事務局から報告を行った。

- (1) 浦安市の学校の適正配置についての経緯
- (2) 学校統合の概要及び今後の進め方
- (3) 学校統合構想の例

・質疑応答、意見交換では以下のような質問及び意見があった。

＜午前の部＞

市 長：少子化と高齢化が一気に私たちの浦安を押し進んでいる。そういった中で、今から11年前になるが、平成13年に第一次の学校適正化検討委員会が立ち上がり、その時から今後の10年20年を見据えた中で、学校の子どもたち、入学してくる子どもたちの数がある程度の見通しができたので、その中で学区の改変といった弾力化のような施策も講じてきたが、

残念ながら、入船地区、美浜地区でかなりのひずみが出てきており、それが今後も続くであろうということの予測、決してこれは私たちの浦安だけではなく、今日の読売新聞では、やはり市原地区が市原市の学校の中で小学校4校が1校に統合されると、千葉市もやはり5校が2校に統合されると、同じような問題を抱えている。私も様々な分野を勉強していく中で、学校問題、特に児童教育の問題に関して専門家に話を聞く機会があった。その中で、少人数教育が今の時代に最も合っているということだった。ただ数が少なければよいという問題ではなくて、山間地や離島などの狭い集落の中で、地域の皆さんが子どもたちを育てると、少人数教育が最も理想的であると言われているが、都市部で理想的かというところを言えない。子どもたちが都市部で多くの方たちと接していく、あるいは小学校もクラス替えもなくそのまま6年間終わってしまうというのは、大変な影響があるということから、第2次の学校適正化等検討委員会できざまな検討をしている中で、統合ということで結論を出したところである。これは独立行政機関である教育委員会が検討し、結論に至ったということである。これからまだまだ大きな問題を抱えている。交通問題あるいは施設の問題、そういった問題についても、これは今度、私ども市長部局が全面的にサポートしていかなければいけないというふうに思っているが、何が子どもたちにとって、これから大事な次代を担う子どもたちにとって、大事なことなのか、これを皆さん方と一緒に考えて、そしてまた御理解、御協力を頂ければということなので、皆さん方と存分に意見を交換したいと思う。

参加者：市長への質問だが、少ない人数、一クラスで6年間続ける環境がよくないという話があったが、それはいったい誰が言っているのか。入船北小に実際そこに通っている子どもと保護者に聞いたものなのか。また、今日この説明会を受けて私たちと意見交換をしたうえで、何かこの方針が変わるだとか、私たちの意見を取り入れて検討する可能性はあるのか。

市長：特に入船北小の子どもたち、あるいは保護者に聞いたことはない。私が直接聞いて、学んだのは、東大の佐藤学先生である。教育学の先生だが、少人数教育は山間地や離島などの僻地では理想であるが、都市部では無理であるということだった。特に小学校、中学校までクラス替えがなく進んだ地区があったが、途中で道をそれ始めた子どもたちが元に戻れなかったというマイナス面を数多く見てきたので、個々の話を聞いてというのではなく、一般論の教育論としてそういうふうに言われているというふうに御理解いただきたい。

また、大きな方針が変わるのかということは、私が市政の全責任は負っているが、教育委員会の方で方針を出すにあたって、一度出してぶれることがないようにという話しをしているし、今後も大きく方針が変わることはないというふうに思っていた。ただ、交通問題のような課題については十分に対応できていると思っている。

参加者：平成13年から決まっているのであれば、そのときから入学する保護者に対し、今浦安市はこういう方針で行っているから、入船北小は対象だということを必ず入学するときに説明する義務があったのではないか。

事務局：13年度からずっと、そういう過小規模化を何とかしていこうということは対策として行ってきたので、手順を踏んでやっている。ただ、実際に統合するという話をしたのは、22年度になってからで、その前には、そういう統合ということは出てこなかったが、その後懇談会を開いたり、手紙を出したり、市長に施政方針で述べてもらったりしてきた。ところが3月11日の大震災があり、その後ちょうど説明会をしていこうというところで震災が起きたから、実施自体をどうしていこうかという検討で時間がとられ、ここに至ってしまったということである。結果として、説明する時期が少し遅くなってしまった。

参加者：まずはじめにやるべきだったことは、入船北小のような過小規模小学校に通うべきその学

区にいる人の、他の学区への流出というのを認めるのをやめて、必ず過小規模小学校は学校を守らせる努力はしたのか。過小規模小学校の学区の見直しを線引きするのは厳しいというのはよくわかる。それ以前にその学校を守る、その学校の子どもの他の学校への流出を認めないということをするべきだったのではないかと思う。

また、今回の学校の統合の目的が何なのか、過小規模小学校の子ども達を救いたいというのが目的なのか、中学校へ進学する子どもの不安をなくすための中学校との統合が目的なのか、どちらの優先順位が高いのか。

事務局：今の入船北小学校の過小規模化を止めるために、小規模学校選択制度というのを導入してきた。対策として過小規模を何とかしたいということで、入船北小への入学を期待した。

目的についてだが、入船地区の子どもたちの学びの環境を豊かにしていく、9年間の学びの連続性を豊かにしていくということが目的である。過小規模校をなくして、入船地区全体の子どもたちの学びの環境を豊かにしていきたい、ということが目的である。

参加者：平成21年3月に浦安市の教育委員会の方で発表している、「学校配置の適正化に向けての基本方針」の中で、市内の小学校と4つの中学校の生徒の保護者を対象に、平成20年9月に市民の意識の把握ということでアンケートをしているが、今後もう一度アンケートを取り直すことは考えているか。

事務局：20年の9月にとったときには、今の状況及び先の状況を踏まえてアンケートをとっているんで、さらに同じ内容をやってもそんなに変わらないと思う。それよりも、今後の対策を考えていく必要があるんで、今のところアンケートを実施するという考えはない。

参加者：実際統合される保護者の意見を聞く気はないのか。

事務局：意見はもちろんお聞きしなければいけないと思っているが、その方法はいろいろある。そのために懇談会を設置している。それぞれの学校のPTA代表の方、学校評議員の方、そういう方たちとの話の中で、代表の方を通しての意見を伺っていければと思っている。

市長：子どもたちの安全を守るのかという話と、3年が勝負だと思っているが、震災後の復旧復興のために総額550億の工事をしなければいけないという話。当然シンボルロードもその中に入っているんで、これは新規に予算立てをしなければいけないが、シンボルロードの交差点に交通整理員を必ず配置していこうというふうに、万全を期していきたいと思っている。

この統合問題は全国的にいろんなところで行われていて、反対の方がかなりいるのもわかっている。過小規模校の問題点を13年から議論してきて、平成20年の第2回の適正規模検討委員会である程度方向性が定まり、そして22年度、教育委員会が決定し、それをもとに私が施政方針で述べて、全保護者に通知を出したのが3月10日であった。これは震災の前日ということで、あの大きな震災を受けたので、やむを得ず復旧復興が優先ということで1年間延ばして今日に至っているが、少なくとも手順的にはやってきている。

反対の意見を聞いて方針を転換すべきかは、違う問題だろうと私は思っている。あくまでも過小規模校の子どもたちの責任を取るのはいはり教育委員会であると思っている。

教育長：小学校の適正規模については、学校教育法の施行規則第41条に、諸学校の学級数は12学級以上、18学級以下を標準とするというふうに規定されている。私自身は今入船北小に通っているお子さん方を、デメリットにつなげて考えてはいない。校長が赴任するときに、小さな学校だがその中で最大の教育効果を発揮してほしい、そこに通って来る子どもたちがほんとにいい学校を卒業した、いい教育ができた、そういう思いで卒業できるように学校運営をしてほしい、ということをまずお話しした。私も運動会など行ったときに、5、6年生

が何度も何度も出場して頑張っている姿を見ている。その条件の中で最大の教育効果を発揮して、今、入船北小ではこのような教育が行われているというところは、デメリットと直接結びつけて考えているわけではない。

私たちは教育の未来を考えて、浦安の10年20年先も含めて、新しい時代に合った、時代に即した教育を目指していかなければならない。将来を担う子どもたちの、浦安の新しい教育の形の創造というふうに考えている。子ども同士がふれあう機会を増やして交友関係を広げていく、成長途上の子どもたちにとっては、この交友関係の広がりには重要な教育環境の一つである。青少年の社会的な事件が起きるときに、その人たちが関わってきた周りの中でもう少し違う関わり方をしてきたら、この事件もなかったのではないかと思われるようなことがたくさん続いた。多くの交友の中で広がりがあり、そして豊かな体験を通して子どもたちが成長していくということを大事に考えている。

入船南小と入船北小は、仮称第9中学校の開校という条件と重なって、小中学校の連携がより内容的に進められる機会である。そのことと重ねて今回統合に当たっての魅力ある学校づくりの中の大きな柱とした。

参加者：入船北小学校に娘が通っている保護者である。今日は市長をはじめ教育長も来ていただけて本当にうれしい。特に先ほど入船北小学校の運動会の様子もご覧いただいているということで、アットホームな入船北小学校ならではのいいところもきちんとわかった上で、今いろいろ検討していただいているということ伺えて本当に安心した。

入船南小に通うっていう見通しが立ちにくかったので、その点をいろいろ教えていただければと思う。入船北小学校の校舎の跡地だが、できれば人が集まる活性化が進むように、校舎の跡地を活性化できるような地域にしていきたい。今の時点でよいので、どのような考えなのか、せっかく市長も来ているので、ご意見を伺いたい。

また、入船北小学校での説明会の時に、入船南小学校に入船北の小学生が移った時にプレハブ校舎は作らないというふうに聞いたが、それは大丈夫か。さらに中学生が頻繁に小学生と交流する必要があるのか伺いたい。

事務局：通学路については、毎年一番安全な道はどこなのかということで、引き続き今後も検討を行っていく。今年の6月に緊急の安全点検ということで、浦安警察の交通課、県の葛南土木事務所の職員を同伴し、現地で安全あるいは防犯面についての点検をした。跡地の利用の点については、全庁的に有効な活用方法を検討していく。

小中の結びつきのことについては、小学校は小学校のよさを生かしていきたい。小学校6年生の最高学年の責任感というのはそこで育んでもらいたいと考えている。どんな交流をしていくかということは、これから学校の先生方と検討していく。小学校は小学校、中学校は中学校だが、共用していくようなことができれば素晴らしいと考えている。

参加者：中学校区を中心ということになると、美浜南小と美浜北小はどちらかという和美浜北小の方に集まるということになるのか。

事務局：美浜地区については統合という大きな方向は決まっているが、いつごろからできるかなどは今後の検討が必要である。

参加者：今入船北小学校、入船南小学校に通っている保護者、あるいは生徒というか、当事者からやはりアンケートを、意見の吸い上げはぜひお願いしたい。

参加者：今回自分の子どもが通う学校が、取り組みに着手されるということでたいへんな期待を持って今日は説明会に来た。こういう新たな取り組みで、やっぱり浦安は小中一貫が素晴らしくて中学校の魅力も非常に高いと、そういった学校づくりを期待したい。おそらく統合する

ことによって、入船北小の方にもそこが一番大きな魅力になっていくのではないかと思いますので、ぜひそこには力を入れていただきたい。

参加者：連携という形で進められている中で、どのような教育を子どもに対して期待しているかということは、やはり保護者として意見を述べさせていただく場というものは必要だと思うし、それを今回対象となる入船地区の保護者に向けて、そこまでも含めて子どもに対してどのような教育環境を望んでいるのかということについての意見の吸い上げ、それを含めてのアンケートという形でぜひ実施していただければと思う。

参加者：過小規模小学校をなくすことを目的にしているということであれば、入船、美浜という地区に関わらず、浦安市の中で1位、2位の小規模校である入船北と美浜北小の統合ということをなぜ考えなかったのか。

事務局：すでに入船地区というのは小学校と中学校のつながりということも進めており、市内全体で中学校区のつながりというのを強めているところである。そういう地域のコミュニティーということを考えて、入船南小と入船北小の統合ということになった。

参加者：選択制で選んで来ていらっしゃる方々の卒業を待って統合してはどうか。今通われている方たちの意見をきちんと聞いて、6年後、7年後にそういった方向に向かうということは考えてもらえないか。また、連携については別問題で、統合は統合、連携は連携だと思う。魅力ある学校ということであれば、中学生とも触れ合え中学校の先生にも教えていただけて良いとは思いますが、中学校の連携ありきなのか。

事務局：いったん小規模化するとなかなか規模が大きくなっていかないのが現実問題である。小規模学校選択制を使うなりして、別の学校に行きたいということもあるので、そういった中で、この入船北小学校を6年間維持していくのは厳しいだろうと思っている。したがって統合をするには早い方がいいと考えている。

また、市内全体で小中連携を進めている。これは全国的な新しい教育の流れでもある。特に中1ギャップの問題もあるので、この時代に合わせた教育だと考えている。

参加者：今在校している生徒、保護者がいる間についてはまずその意見を汲み入れてほしい。皆さんにアンケートをとっていただきたいというふうに思っている。特に入船北小に通っている子どもにとってみると、学校がなくなってしまうということがもっとも大きいことで、6年生の最後の1年間だけ、今まで通った学校ではないところで卒業していくということに対して、気持ち的にもいろいろな面があると思うので、次のステップの中学校との連携というのは今の段階では考えにくい。まずそのところを整理したいので、まずは皆さんにアンケートをとっていただきたいと思う。

事務局：心配や不安を解消していくことは大きな課題であるので、小学校同士の連携をこれから統合までの間に考えていかなければならないと思う。

参加者：幼稚園に対しての情報発信をもっと丁寧にしていただきたい。

参加者：入船中学校は残るのか。

事務局：入船中学校は残る。

参加者：美浜北小学校への通学について個別の事情を伺うということだが、通学路の安全面は個別事情としては認められないのか。

事務局：通常の場合には兄弟関係とか、身体的理由であるとか、子どもたちの人間関係の問題、いじめ、不登校、そういう事情を伺いながら学区外就学を認めている。

参加者：私は入船地区に住んでいて、幼稚園の子どもを持っている。美浜北小学校への途中からの編入なり、最初からの新入学なり、もう少し幅広い形で見ていただきたい。

事務局：学区外就学については、個別の事情を伺いながらできるだけ柔軟に対応していきたい。

教育長：美浜北小学校への入学については25年度から小規模学校選択制度を止め、幼稚園からの関係もあるので、入船地区から美浜地区へ希望するお子さんを受け入れられるような状況を整えているので、弾力的に考えていきたい。

アンケートについては、内容や方法について細かく検討したうえで実施する。

市長：アンケートは私も責任もってさせるようにするが、ただアンケートの結果による大きな方向の転換はないということだけはぜひ御理解をいただきたい。

<午後の部>

参加者：基本的に入船北小へ入学することよろしいか。

事務局：はい、学区なので入っていただければと思っている。

参加者：その中でどうせ転校するなら、入船南小へ入学したいという方がいた場合、それは大丈夫か。その場合は特別に入学を認めるということか。

事務局：学区外就学については、これまでと同様に学区外としての個別の事情をうかがって、入学していただく。

参加者：25年度、26年度の新入生は、2年間は入船北小に入学するという理解でよろしいか。

事務局：学区外就学の希望によって、入学を認めていく場合もあるがそのとおりである。

参加者：懇談会の議論をいつ公開するかは決められているか。また、6年生の教室が中学校にあるという可能性を確認したいのだが。また、現在入船南小学校に通っている小学生の兄弟が例えば学区外から来ているという場合、学区外からは入れないというのか。

事務局：懇談会や説明会の内容についての公開については、これからまた懇談会を開いて、公開する内容を含めて意見をうかがいながら対応していく。いつということはまだ言えないが、できるだけ早くやっていきたい。

それから6年生が中学校の校舎ということも考えられる。ただ、イメージとして小学校は小学校、中学校は中学校という組織はあるから、小学校で使うブロック、中学校で使うブロック、そして共通して使えるようなところもあるというイメージを持っていただければと思う。また、現在入船南小学校に兄弟がいるということならば、今まで学区外就学については認めている。

参加者：1カ月や2カ月では公開できないということなのか。

事務局：公開する内容について、次の懇談会でご意見をうかがって公開していく。

参加者：意見を言ったことがちゃんと反映されているのかどうかということが不安にどうしてもなってしまう。それを検討していただいているのは承知の上だが、こういう議論になっているということを、議論の段階を経てそのまま公開されないと、結論だけ公開されても突然決まったことになってしまうので、議論の段階の順番に公開していただきたい。

事務局：そういう意見があれば、懇談会を経ないでも公開できる部分を公開したい。

参加者：入船南小学校の児童の保護者である。児童育成クラブに関して今のところ、どういった検討がされているのかをお尋ねしたい。

事務局：児童育成クラブについては、これから子どもが増えてくるのだから、これから不安がないようにしていく。

参加者：入船南小学校に長男が通っている。学区は入船北小学校になり、下の子は今美浜北幼稚園に通っている。下の子は入船北小学校に入学か、若しくは上の子と同じように入船南小学校

の方へと考えているが、同じ学区の方の多くは、美浜北小学校への入学も希望しているとも聞いている。入船北小学校学区の子どもで、美浜北小学校へ入学したいと希望がある際の個別の事情、受け入れられるところと、受け入れられない事情、そのボーダーラインがあるようなら具体的に教えていただきたい。

事務局：例えば病気などの身体的な問題、それから、兄弟がすでに入学しているから同じ学校に、最近少し増えてきているのは、子どもの人間関係の問題、不登校の問題やいじめの問題、そういう個別の事情をうかがっている。

参加者：住んでいるところの同じお子さんと同じ小学校に通わせたいと思ってもあるが、そのあたりは、どう考えているか。

事務局：入船地区という考え方をもっと強めていければと考えているので、できれば、同じところに住んでいる方は、同じ学校に行っていただきたいと考えている。

参加者：この際に入船南小学校の設備をきちんとしていただけたらと思っている。

市長：入船北小学校にあって入船南小学校にないエレベーターは、平成26年度に工事しようと思っている。またスロープについても改修していく方向なので、この他の細かなものについて、校長と相談して進めて行く。

参加者：美浜北幼稚園に通っている保護者だが、学校統合というのは間違いなく行われるのか。

事務局：早急に進めなければいけない問題として、平成27年の4月に開校したいと考えている。

参加者：シンボルロードが一番気になっていて、陸橋とかが造られるとかいう話を一度聞いたが、それは検討されているのか。

事務局：関係機関に聞きながら調べてきたところだが、陸橋、歩道橋というのは現実的ではないという結論に至っている。安全対策については、通学路をどう設定するか考える中で、市長から交通整理員は付けるというお話はいただいている。

参加者：入船北小学校に長女を通わせている。入船北の学童保育は、統合後も残していただけるのか。

事務局：入船北保育園のところにある学童について今のところ変えるという考えはない。

参加者：今二つある学童が二つ存続されるということか。

事務局：二つを一つにしようという話は今のところはない。

参加者：今後広報はどのように行う予定か伺いたい、またスケジュール的にどんなふうになるのか、教えていただきたい。小中一貫ではなく小中連携だとしたときに、現状のものどどこが違ってくるのか、入船の子供たちは、どういう利点があるのか。教員の方を小学校に連れて来て、教えるという話があったが、現状で市内にそういう例があるのか、あったら教えてほしい。

また、入船地区として統合するということだが、市として統合に関してデメリットということは何か考えられているのか。

事務局：広報の仕方だが、今後懇談会や説明会に出した資料や、記録があるのはすべてではないがお知らせとして文書で、全市のものはホームページへ資料を載せていきたいと思っている。

また教育委員会が出している広報紙もあるので、どれだけ載せていくかは考えていく。統合の今後のスケジュールは、これからまた懇談会を開き、必要ならば目安を公表していきたい。施設の面では、来年すぐに工事というわけにはいかないなので、来年設計の予算を取りたいと思っている。その後工事するということになる。

一番大事なことは子どもたちが不安なく、こちらの校舎に入れるようにということだと思うので、その間の小学校同士の連携をどのようにしていくかということや学校の先生方を交えた部会を今年中に立ち上げ、行事の交流であるとか、または一緒に何か活動するなどを考

えていきたい。

小中連携と一貫ということだが、一貫校を目指しているわけではない。交流がどれだけできるかということを生方と一緒に考えていくが、小学校は小学校、中学校は中学校ということで進めていきたい。

浦安市の例では、実際に明海地区の合築校舎では、昨年度も国語の授業を中学校の先生が教えるということがあった。小学校の先生が入って、ティームティ칭ングの形で行ったことがあった。

統合に関するデメリットだが、検討すべき課題ということで、資料の3ページにあることはクリアしていかなければいけないというふうに思っている。それらは、子どもたちが安心して、楽しく通うことができる新しい小学校を造るための課題である。

教育長：浦安市では、小中連携の教育を進めるということを全市的に行っている。小学校の先生が6年生まで一生懸命教育して、それで役目は終わったという考え方ではなく、義務教育9年間を見通して、この子達の今の学びが中学校のどこにつながっていくのか、この後どこでどうなっていくか、そういうことを考えながら小学校教育を行い、そういう意味で、小中連携・一貫教育というふうに浦安では取り組んでいる。

小学校から中学校へのなめらかな接続、そして中1ギャップの解消、特に小学校高学年の生徒指導の問題、どこの中学校区もやっているが、学力向上に向けても小中連携・一貫教育の考え方でいい、先生方の交流も含めて考えている。

参加者：3年間のスケジュールの表とかも出していただけるのか。

事務局：今の段階で、どこまで示せるかわからないが、できるだけ出していきたい

参加者：こうやって説明会を繰り返しているのは、それに対して反対意見が多かったらリセットするというわけではなく、私たちが持っている不安とか不明な部分を説明会を少しでも和らげよう、低くしようということだと思う。

これから決められる部分に関しては、私たちが意見を言うことによって、希望を入れていただくというものがまだ残っているのか。

また、市の方から私たちに対して情報公開というか説明を、何か月かに一回という形でやっていただけるということを希望する。いろんな形で情報発信というのをしていただければと思う。決まったことは決まったことで従わなければいけないのだろうが、受け入れ方というのは随分違うと思うので、ぜひ温度差がある中で、いろんな不安があるということをご理解いただいて、今後の情報公開をいただければと思う。

事務局：スケジュールについて、本当におっしゃる通りである。これからいろんなところで広報、公開していきたい。

参加者：入船北小学校に通う3年生の保護者だが、一番の不安は通学の不安である。私の子どもは、美浜北幼稚園に通ってたので、美浜北小学校の方がいいかなと思う。できれば皆さん不安を抱えられていると思うので、希望に沿った学校に行かせていただければと思う。

通学路を確保するのが一番だと思うので、早急にそこは解決していただきたい。

事務局：希望にそった学校にということで弾力的に考えていければと思うが、私どもとしてはやっぱり実際に今は美浜北小に行きたいと思ってはいても、開校時にはやはりあの校舎に通いたいというような、魅力ある学校を創っていきたくて考えている。

それから、通学路については、これから検討していくので、御理解いただければと思う。

参加者：通学路に関して、例えば保護者の9割が歩道橋を造ってほしいという要望があれば可能性があるという状況なのか。



また、交通整理員を配置するなどの措置を検討していくと書いてあるが、もう少し安心できるような詳細な方法を教えていただければ安心できるのでお願いしたい。

事務局：全国的に（歩道橋を）設置しない方向性というのは、警察の方でうかがった時に出てきたことである。通学路を設定するのは学校だが、どこが安全に通れるだろうかを考えて設定する。その中で、交通整理員をつけるならどこにつけた方がいいかということを考えていくので御理解いただきたい。

市長：歩道橋について、全国的に設置しない方向性と言っているのは実は地震対策である。今まで皆さんがイメージしている歩道橋は、全国的にも警察の方から待たがかかっているということで御理解いただきたい。